ひとつむぎ

Profile

"ひと"と"ひと"をつむぐことから生まれる
教育やまちづくりを目指して

ひとつむぎのアウトライン

■ 私たちの目指す先

"ひと"と"ひと"をつむぐことから生まれる教育やまちづくりを目指して

わたしたちは、牟岐での原体験の中で豊かな自然や文化、そして何よりも"ひとのあたたかさ"という素晴らしい魅力を感じました。

しかし同時に、産業の衰退や少子高齢化、それに伴う多様な教育機会の不足――すなわち過疎地が抱える課題も垣間見ました。魅力を知る事は学びの場であり、新たな魅力を育てることはまちづくりの場。わたしたちは、学びの場とまちづくりの場の双方を"ひと"をつむぐことで繋ぎ合わせ、これらの課題を乗り越える原動力を生み出したい。

これが、わたしたちにできる恩返しだと考えています。

■活動理念と事業テーマ

私たちは、"ひと"と"ひと"をつむぐ存在でありたい

教育やまちづくりを考えるとき、そこには必ず"ひと"と"ひと"の交わりが存在します。私たちは、教育やまちづくりを独立して捉えるのではなく、"ひと"を共通項にして、私たちの力だけでなく、支えて下さる様々な方の力も組み合わせることで、相互の関係性・補完性を最大限引き出せるような活動を行いたいと考えています。

具体的には、教育支援・まちづくり支援・交流支援の３つのテーマで事業を行っています。教育支援領域では、牟岐町の中学生を対象に子どもたちの主体性や協調性を育む"シラタマ活動"や、高校生を対象に高校のない牟岐で仮想的な高校を作る"ローカルハイスクール"を軸に活動しています。まちづくり支援領域では、牟岐沖の有人離島"出羽島"で本をキーワードにした地域活動を行っています。また、交流支援領域では、南海トラフ地震の被害が想定される牟岐町と、東日本大震災で被害を受けた宮城県女川町をつなぐ学校間の交流事業などへ参画しています。

■ 大切にする４つの姿勢

よりそうこと

私たちは地元のファン・サポーターとして、同じ未来を思い描き、地元によりそいながら活動していきたいと思っています。

よそものであること

私たちは地元の方と同じ立場にはなれません。しかし、伴走者として"よそもの"だから見えること、"よそもの"だからできることを大切にしたいと思っています。

学び続ける存在であること

私たちは大学生主体の法人として謙虚に学び続ける姿勢をもち、常に自らへの問いかけを忘れず行動したいと思っています。

対話を大切にすること

私たちは常に対話を重んじ、お互いの意見や声、そして"ひと"に対し、誠実に耳を傾け、敬意をもって尊重します。

■ 活動フィールドー牟岐町について

私たちが活動拠点とする牟岐町は、"四国の右下"と呼ばれる四国の南東部、徳島県の南部に位置し、徳島市内からは車で１時間半ほどの距離にある人口 4000 人ほどの町です。周囲を山で囲まれる他方、眼下には太平洋が広がり、沖合約 4 km には人口 80 人程度の有人離島"出羽島"があります。出羽島はかつては遠洋漁業で栄え、平成 29 年２月には漁村集落の町並みが国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されました。

教育環境としては、平成 25 年４月に町内の保育所、小学校、中学校を１箇所に集約化した市宇ケ丘学園を整備しています。牟岐町ではこの学園を中心に、０歳から 15 歳までの 15 年間を見通した連続性のある教育活動を行うとともに、地域の中心となる学園として、地域総がかりで子どもたちの教育を推進する"パッケージスクール"に挑戦しています。

学校は現在、児童・生徒数の減少などから１学年１学級で運営され、中学校卒業までを固定したメンバーで学校生活を送ります。さらに町内に高校がないため、町外への進学や就職などによる若年層の人口流出が大きな課題となっています。

ひとつむぎの教育支援事業

■ 実施背景と目的

牟岐町では、平成 25 年 4 月から、町内唯一の学校である市宇ケ丘学園を中心とした保小中一貫型教育を開始しました。さらに、平成 26 年 3 月には、学校・園・保護者・地域団体・行政・有識者を構成員とする " 牟岐の子どもを育てる会 " を設置し、育てたい牟岐の子ども像について議論が行われました。

中学校卒業まで固定された人間関係の中で育つ子どもたちは、素直で真面目であったり、とても仲がいいといったプラス面がある一方、自分で考えて行動する機会が少ないため、主体性や協調性に課題があったり価値観の固定化などのマイナス面もみられます。

そのため牟岐の子どもを育てる会では、子どもたちに育てたい力を「自分の意志や判断で物事に取り組む主体性」や「他者を認め協力しながら自分を表現する協調性」と定義しました。そして、これらの力を身につけさせるための機会を作るとともに、それを地域ぐるみでサポートするとの結論に至りました。そのような機会の実現のため、学校の先生や大人が作るタテの関係ではなく、年代も近い大学生によるナナメの関係の中で、多様な価値観を与えることができる若者が必要とされていました。このような背景の下で、ひとつむぎの教育支援事業が誕生したのです。

私たちは、若者らしさを活かしてこの地域に抜け落ちた世代や価値観を足し込み、子供たちや地域の方と併走することで、過疎地における教育課題に挑戦しています。

■ 実施内容

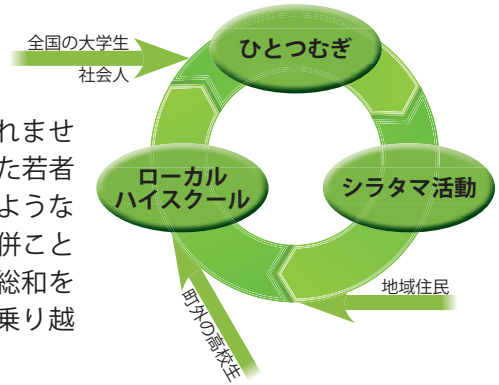
ひとつむぎの特徴は、義務教育段階の子どもたちを対象に、学校・地域・行政とタイアップしてプログラムの企画・運営を行っている点にあります。その中核にある取り組みが、中学生対象のキャリア教育プログラム " シラタマ活動 " です。シラタマ活動は、中学生が自ら企画を考えて、実際に実現させていく過程を通じて、主体性や協調性を身につけることを目的としたプログラムです。中学生が主体となって、小学生や地域の大人たちを巻き込んで、自分たちでイベントを考え、自分たちで作り上げます。中学 2 年生の冬から 3 年生の夏までを 1 サイクルとして、月 1 回程度の頻度でプログラムを行っており、大学生はプログラムの設計から運営までを一貫して行います。

そして、このシラタマ活動が起点となって誕生したのが、高校のない牟岐町に高校生が集まる場を作る " ローカルハイスクール " です。春や夏には、牟岐町出身の高校生が町外の友人を巻き込み、ひとつむぎの大学生のほか、ひとつむぎのネットワークを活かして社会人の方などにもご協力いただき、これからの時代に必要な多様な学びの時間を共有しています。

■ 展望

牟岐町は過疎化の一途をたどっています。人口は 4000 人を下回り、平成 29 年度に生まれた子どもの数は 10 人まで減少しました。

町の定住人口を増やすことは難しいかもしれません。しかし、これまで町外に流出する一方だった若者が故郷に関わりを持ち続け、さらに、私たちのような " よそもの " がこの町で継続的に活動する力を併ことは可能です。これらの取り組みで関係人口の総和を増やすことで、地方の人口減少による課題を乗り越えることができると考えています。



Column プログラムの一コマ

- シラタマ活動

シラタマ活動では、大学生とのワークショップを通じて、主体性と協調性を身につけます。大学生は中学生に、考え方やまとめ方などをレクチャーしますが、イベントのアイデア出しや、それらをまとめてイベントを作り上げるプロセスは中学生に委ねます。また、各回の最後には必ず振り返りを行い、自らの学びを深めます。

- ローカルハイスクール

ローカルハイスクールでは、牟岐町出身の高校生や町外の友人と、ひとつむぎの大学生や社会人のネットワークを合わせることで、高校生の新たな学びの場を生み出します。過去には、大学生の講義を通じて大学の学びを体験したり、社会人ゲストによる新しい切り口から勉強をとらえなおすワークショップなどを開催しました。

■ ひとつむぎのあゆみ

2014

8月 ひとつむぎ設立のきっかけとなる国際交流プログラムが開催

設立のきっかけは、2014 年の夏に徳島や関西圏を中心とした大学生が、国際交流プログラムのスタッフとして参加するため、牟岐で過ごした１週間の日々に見出せます。

１週間の期間中、私たちは牟岐の持つ豊饒な海、豊かな山々、食文化、伝統、そして何より"ひと"のあたたかさに魅了されました。

牟岐での日々を過ごすうちに、私たちの心の中で「牟岐のために恩返しをしたい」「大学生の自分たちだからこそできる貢献をしたい」という気持ちがふつふつと湧き上がってきました。

その思いに多くの人々が共感し、たちあがった団体――それが、NPO 法人ひとつむぎです。

10 月 牟岐でひとつになり、" ひと " をつむぐ活動を――そのような意味を込め、" ひとつむぎ " と名付けて活動を開始

2015

1月 まちづくり支援事業の先駆けとなる出羽島グランドデザインワークショップに参画

2月 **ひとつむぎが特定非営利活動法人化**
本格的な活動をスタート

3月 シラタマ活動（中学生対象のキャリア教育事業）をスタート (2015.3- 現在)

8月 交流支援事業として、牟岐町と宮城県女川町の小学校を繋ぐ女川・牟岐きずなプロジェクトをスタート

シラタマ活動の成果発表会 "8.30 むぎいろフェスティバル " を開催。子どもたちが町の人へ向けたイベントを企画・運営

2016

4月 ローカルハイスクール（高校生対象のキャリア教育事業）をスタート (2016.4- 現在)

8月 ローカルハイスクールで、初の合宿型セミナーとなる " サマーキャンプ 2016" を開催

2017
2018

4月 徳島県青少年講座企画運営業務を受託。" キャリアデザインカフェ " と題し県南部地域で全４回のセミナーを開催

■ メディア掲載・受賞・外部発表の実績

2014.12.30	㊍ NHK 徳島放送局
2014.12.31	㊍ 徳島新聞 (１面)
2015.7.27	㊍ 日本教育新聞
2015.9	㊍ 徳島県民活動プラザ情報誌「ひと」
2015.10	㊍ 日本教育新聞（顧問が連載でコラムを執筆）
2016.6.17	㊍ 東洋経済オンライン
2016.9.4	発 地域活性化学会第８回研究大会（シラタマ活動等を通じた地方創生の可能性）
2017.2.24	賞 とくしま NPO 賞 きらめき賞
2017.5.19	発 宮崎県教育委員会主催「宮崎県キャリア教育実践研究会」
2017.7	㊍ ソトコト 2017 年７月号
2017.10.26	発 内閣府主催「子供・若者育成支援のための地域連携推進事業 中四国ブロック研修会」
2018.2.12	発 徳島県教育委員会等主催「地方創生コンファレンス in 徳島」
2018.6	㊍ 内閣府刊行「平成 30 年版 子供・若者白書」

㊍ : メディア掲載　賞 : 受賞　発 : 外部発表
（上記実績は抜粋です。）

■ 法人の概要

法人名称	**特定非営利活動法人 ひとつむぎ**
設立年月日	2015 年２月 23 日 （徳島県による認証日：2015 年２月２日）
所在地	〒 771-1153 徳島県徳島市応神町吉成字有天４－７
理事長	藤稿 智宏
副理事長	高野 風人
理事	田岡 佑輝
監事	石原 翔太

ＮＰＯ法人ひとつむぎウェブサイト
https://hitotsumugi.org/

2018.6.30